



2024年がスタートして半月が経ちました。今が1年で最も寒い時期ですが、47日間の3学期、一日一日を大切にしつつ、そして次年度のこと意識しながら、中学校生活を送っている生徒たちの姿を見ることができます。昨年は、インフルエンザの流行で、学級閉鎖もありました。インフルエンザや新型コロナウイルス感染拡大を引き続き防ぎながら、元気に中学校生活を送ることができるように、日々の健康チェックのご協力をよろしくお願いいたします。

3学期始業式 校長講話より

全校の皆さん、あけましておめでとうございます。冬休み、元気に過ごせましたか。

ここ上田市は比較的穏やかな日が続きましたが、元日には大きな地震と津波が起きてしまいました。また、空港での事故もありました。今日は、まず皆さんと共に、お亡くなりになった皆さんへお悔やみの気持ちを込めて、黙とうをささげたいと思います。(黙とう)

今年、2024(令和6年)はどんな年でしょうか。実は、第一中学校にとって、一つの節目の年になります。1999年(平成11年)に、学校がこの地に移転し、新校舎が完成しました。その時から、今年でちょうど25年目を迎えます。四半世紀という節目になります。

昨年の秋、「歴代PTA会長会」が開催されました。元PTA会長の皆さんから、たくさんのお話をいただきました。校舎移転、新校舎完成へ向けて、様々なことが話し合われ、一つ一つ解決をしていったそうです。用地確保や募金活動のご苦勞がありました。一中の校舎は大変多額の建設費がかかっているそうです。PTAとしても協力しようと、一軒一軒回って募金をお願いしたとのことでした。そして、新たな通学区が検討され決定しました。それぞれの地区から安全に通学できるようにと各地区から意見が寄せられ、ようやく通学路が決まりました。一中の校舎は、近代的な建物に、屋根は日本的な印象です。これは、信濃国分寺の屋根をイメージして作られたそうです。歴史ある地に作られたことを表しています。そして、「私たちは、熱い思いをもって、一中をいつも見守っているんだよ」との会長さんたちの言葉に、私たちの知らないところで、一中のために、一中学生のためにご苦勞されてきたことを教えていただきました。また、現在も第一中学校のことを大事に思ってくださっていることを感じました。知らない人に助けってもらう経験は、皆さんは実感としてあまりないかもしれませんが、私たちは、実際には多くの方々に支えていただいていますね。

私たちは、熱い思いをもって
一中を、いつも見守っているよ



実は、私はとてもたくさんの人に助けってもらった経験が、もう一つあります。第一中の前に校長として働いていた長野市の中学校です。令和元年、台風19号で千曲川が氾濫して、学校の1階部分が全て2m近く水に浸かってしまいました。その時、たくさんの人たちが駆け付けて、泥まみれになって校舎の復旧作業をしてくださいました。それまで出会ったことのない、名前も知らない方々です。自衛隊の皆さんの力も大変ありがたかったです。そして、他校の中学生からたくさんのメッセージが届きました。励ましの言葉、自分たちでチャリティコンサートやバザーを開いて募った義援金、タオルを持ち寄って縫った雑巾、文房具など、様々な形でご支援いただきました。長野県だけでなく、北海道、青森、岡山、和歌山、大阪、愛知など、全国各地からのエールに励まされました。

自分たちだけではどうしようもないことをたくさんの方々に助けていただいて、勇気をもって一步一步進むことができました。あの時から5年経ちますが、自分一人の力だけでは立ち直ることはできなかったと強く感じています。また、災害はいつでも誰にでも起こりうるということも実感しました。日頃から、自分が生活する場所の自然や歴史をしっかりと学ぶこと、地域の人たちと一緒に協力し活動することが本当に大切だと思います。こんな経験のある私ですが、誰かのために行動することは難しいなど感じることもあります。一人だけの力ではちっぽけなものに感じてしまい、勇気が出ないこともあります。今回、石川県の被災で、大変な思いをされている方々がいらっしゃいます。私たちができることをみんなで考え、私たちの力を合わせて伝えることができたらと願っています。支えられた経験、助けていただいた経験を力に変えていきたいと思い、新年の校長講話とします。



「命の学級 今、あなたたちに伝えたいこと ～2学年 性教育講演会～」

2学期の性教育。2学年では、上田市立産婦人科病院より助産師の先生を講師としてお呼びし、「命の学級～今、あなたたちに伝えたい事～」と題して講演会を伺いました。

まず、講師の先生より、「私が助産師になった理由」を話していただきました。お話のなかで、生命誕生の神秘に惹かれたことや、一人の人の人生のスタートをお世話できる仕事に関わりたかったというお話が大変印象的でした。このお話で、助産師という仕事に憧れを抱く生徒もいたようです。

生徒たちは、赤ちゃんの誕生について初めて知る内容もあり、神秘的な様子や驚きを感じながらお話を聞いていました。助産師さんが語るお話の中から、いちばん大事なものは命であること、そして、周りの人全ての人の命が大切であることを学びました。

子どもから大人へ成長するという思春期の体の変化や、出産適齢期について、産み時に備えて女子編、男子編として、今の自分の体を大事にすることやHPVについても教えていただきました。



【生徒の感想】

- ・赤ちゃんができて生まれるまでに様々な苦労があるとわかりました。赤ちゃんの成長スピードや子宮内での生活などは知らなかったのでとても驚きました。自分の体については、細くなりたいたい、体重を減らしたいと思ってしまいますが、バランスの悪い生活をしていると今後の人生に影響してしまうと知ったので、今は、お菓子を減らし、食事はしっかりとろうと思いました。生理の痛み止めは飲まない方が良くと親に言われてきましたが、我慢する方が体に悪いので親と相談しようと思いました。自分は、子宮頸がんワクチンをやりました。今後も良い生活を心がけたいと思います。
- ・今日の講演を聞いて、自分が生まれてきたことは奇跡であるという事がわかりました。長い時間をかけてたった一つの生命が誕生するというとても尊いものであるということがわかりました。男性、女性それぞれのことを理解し、尊重し合うことが大切である事がわかりました。自分の未来をよく考え、自分自身を大切に生きていくことがとても大切であるという事がわかりました。
- ・がんは、命にもかかわる病気だから予防したりするのは良いと思うけど、その分、副作用など、接種をあきらめてしまう人が多くいると思う。専門の人に聞いたりしてワクチン接種をできる時にするのが大切なんだと思った。HPV ワクチンは接種するだけの利益があるので相談してみるのが良かったと思った。赤ちゃんが生まれる瞬間に寄り添って、その後も支える助産師はすごいというのもあるけど、カッコいいなと思いました。
- ・今まであまり知ることがなかった生命誕生について深く知ることができました。私は、今回のお話の中で、赤ちゃんが生まれるには、お母さんだけが頑張っているのではなく、赤ちゃん自身が一番頑張っているということに一番驚きました。また、思春期の男女の体づくりはあまり知らなかったし、恥ずかしくて知ろうとしたこともなかったので、今回のお話でちゃんと知ることができて良かったです。今回学んだことを大人になっても忘れず生かしていけるようにしたいです。

「授業中の見守りボランティア」について（お知らせ）

今月より、地域の方に、日頃の授業に入っていただくことになりました。まずは2名の方に授業中の見守りボランティアとして、学習内容の確認や助言、技能面の間接的補助などの学習支援を行っていただきます。

水曜日放課後に実施している「放課後学力アップ教室」でも、地域の方に学習を見ていただいています。引き続き、地域の方々にお世話になりながら、地域と共に在る第一中学校を目指して参ります。

